

# 富山県高P連会報

第 119 号  
2018.9

編集発行

富山県高等学校PTA連合会  
発行人 会長 山崎 均  
富山市千歳町1-5-1  
富山県教育記念館41号  
TEL 076(432)2810  
FAX 076(432)1501



富山県高等学校PTA連合会 会長 山崎 均

## 高等学校PTA連合会の役割

本年6月から県高P連の会長を拝命しました。会長として得られた情報を皆様へ的確にお伝えし、同時に自分自身も勉強していきたいと思えます。一年間という短い期間ですがよろしくお願ひ申し上げます。

さて、会長就任後早や3ヶ月が経過しました。北信越・全国の総会に加え、関連する様々なワーキング会議に招聘され戸惑っているというのが正直な感想です。会議に出席しても配布される資料の中身を理解するのに追われ咀嚼するには至っていない現状です。冒頭の使命を充分果たせず忸怩たる思いですがこの紙面を借りて少しでも会長としての役割を果たせればと思えます。

全国高P連では全国レベルでの情報交換や共通する問題提議・協議に加え文科省等の関連機関との連携を行っており、現会長は富山県高P連出身の牧田さんが就いています。私が所属する研修委員会では全国大会で協議すべき課題を継続性をポイントに検討を重ねています。現時点で取り上げられているテーマは概ね①人間力(AI時代へ向け)②ICT(ブラス・マイナス両面から)③高大接続④グローバル(少子高齢化・地方創成を視

点に)⑤地域との関わり(社会性の育成・地域での役割)の5項目に大別されると思えます。いずれも皆さんと共通する重要なテーマであり、各単Pでも十分認識され各種事業が実施されていることと思えます。協議すべき具体的な視点や切り口があれば是非皆様からもお聞かせいただけたら幸いです。

また県の関連では①SNS②公共交通③人づくりをテーマとした会議にPTA代表として出席しました。①SNSでは小・中・高PTAが参加し、スマホ保有の低年齢化が進みネットトラブルの増加と深刻さが増大している現状の説明を受け、対応策として各家庭内で子供との会話とルール作りが最も有効であるという共通理解を得ました。今後はモデル小学校を設定し具体的なプランを検証していく予定です。当会でもSNSに起因するトラブルが拡大傾向にある現状と、子供たちが重大犯罪に巻き込まれるリスクの増大を認識し、今秋の指導者研修会ではSNSに対する意識を更に深めていただく機会にしたいと考えています。②公共交通関連の会議では高校生が大きな荷物を持ちドアの近くに集まる等の指摘がありました。10月

実施予定のさわやか運動の一環として十分検討していただくと同時に、より一層個別での対応をお願いしたいと思えます。③人づくりでは生徒及び教員を対象とした様々な制度があることを再認識しました。必要に応じて照会の上、有効な活用をお願いいたします。また平均寿命100年時代に向け、各年代でキャリアアップが可能なシステムを作り、少子高齢化が進む社会でも活力を維持出来る柔軟な地域社会構築の検討会議もスタートしています。

前述の通り、様々な会議に参加しても戸惑う事ばかりですが、最近は少し開き直っています。私自身はものづくりに関連した業種に就いています。戦後の奇跡的な我が国の経済復興はものづくりを中心に成し遂げられたと言つて過言ではないと思えます。資源が乏しい我が国では高品質でリーズナブルなものづくりは必要不可欠です。国際的な競争力を生み出す根幹は製造現場にあり、その現場の基本は1S(整理・整頓・清潔・清掃)、5現主義(現場・現物・現実・原理・原則)そしてTQCといった地道な小集団活動を全員参加で継続実施することにあると思えます。また、ものづくりは人づくりとも言われます。効率性と均一な品質を追求する製造現場と豊かな人間性を育てる人間教育とは大きな開きがありますが、教育現場の各局面で情報の共有化を図りPDCAを回しながら知恵を出し合い改善を進めていくことは有効な手法だと思います。

教育の主たる現場は家庭・学校・社会です。情報が氾濫し、様々な価値観が溢れる現代社会において、教育を取り巻く課題はますます複雑になっています。子供たちが安心して豊かな人間性を育てていけるよう現実と原則をしっかりと捉え、皆様と共に考え少しでも前に進んでいきたいと思えますので、今後ともご支援ご協力の程お願ひ申し上げます。

平成30年度定期総会開催  
6月5日富山電気ビルにおいて、平成30年度県高P連の定期総会が約220名の参加を得て開催され、新役員が次のとおり選出されました。

顧問 牧田和樹 石坂兼人

会長 山崎 均(富山中中部)

副会長 岩田秀昭(魚津) 深松 茂(富山)  
瀬島史郎(高岡) 山本英介(砺波)  
荒木義雄(高岡)

会計監査 御座仲太郎(桜井) 海老忠大(高商)

P側理事 宮原常昌(滑川) 杉本武志(雄山)  
西田慎一(富工) 升谷 渉(富商)  
五十田利昭(富東) 浦野浩二(小杉)  
水口清志(工藝) 老松直人(砺工)  
井上 武(福野) 長島 修(石動)

T側理事 神田 聡(魚津) 石倉和裕(滑川)  
高松敬郎(富山) 福島英晴(富中)  
仲井 章(富商) 宮岸 毅(高商)  
佐野友昭(小杉) 六家敬吉(工藝)  
林 誠一(砺波) 今堀俊彦(福野)

幹事 狭布知寿子(しらとり支援)

- 井川忠司(魚工) 塩原優子(雄山)
- 奥澤久夫(八尾) 高橋宏幸(富北)
- 島谷 徹(富南) 南 修朗(伏木)
- 永田幸久(高南) 林 成佳(氷見)
- 伏江 章(糸織) 布目貴久(尖部製)
- 古野芳子(高岡高等支援)
- 広井 睦・岩河隆一(事務局)

# 共学共育

## \*雄山高校PTA\*

### 「子どもの成長を見守って」

本校PTAでは、親子と学校との三者の連携を密にして子どもたちの成長につなげていこうとする「PTS」活動を行っています。

例えば広報委員会では、PTS三者の共通テーマをアンケートで掘り下げ、三者の相互理解につながるPTA広報誌づくりを努めています。また、PTAからのしかけで『ハクヨン』という雄山高校のマスコットづくりも生徒公募の形で行ってきました。昨年行われた柏葉祭には、『ハクヨン』の着ぐるみまで登場し、みんなと記念撮影をするなど、学園祭を大いに盛り上げていました。



柏葉祭

次に、生活指導委員会では祭礼巡視やさわやか運動への参加に加えて、生徒の活動を応援する横断幕作りや、学校・生徒会と連携したイレブン・セブン運動を推進しています。横断幕は計3枚となり、部活動やさわや

か運動の際に利用されています。

研修委員会では2年前よりそれまで恒例であった講演会と「PTSしゃべり場」以外に、まずは保護者の心にもゆとりをと、新たに「親のしゃべり場」「親子写経教室」に取り組んで来しました。今年の「親のしゃべり場」では、終了した後も20分もそのまましゃべり続け、大いに楽しく満足した行事となったようです。



さわやか運動

その他、文書以外にこまめなメール配信で保護者の学校行事への参加をうながしたりし、情報共有によってPTSの連携につなげています。

雄山高校PTA会長

杉本 武志



## \*富山東高校PTA\*

### 「PTA活動をおして共に歩む」

共に歩む

本校のPTA活動は、総会と常任委員会および専門委員会からなっています。総会は、年1回、年度当初に開催し、秋にはPTA全体研修会として、各界より講師を招いて、家庭教育や生活指導、時事問題などの講演会を開催し、会員の研修の場としています。また、平成11年度からPTAの専門委員会を生徒生活指導・学校保健・東籬（PTA機関紙）編集・進路指導の4委員会に改組し、それぞれ年2回の委員会を開催しています。

また、PTA役員は、会長1名、副会長3名、常任委員2名、監査委員2名、各専門委員会54名（生徒生活指導13名、保健指導18名、東籬編集7名、進路指導16名）からなっています。

今年6月の第1回専門委員会では、PTA役員と教職員とで活動内容や現状報告など意見交換がされました。



PTA大学訪問（富山大学）

生徒生活指導委員会では、生徒指導上の諸問題や生徒の実態について、出席者相互の意見交換を行い、家庭と学校の連携を図りながら、子供たちの規律ある生活のための具体的の方策を探っています。6月の委員会で

は、特に「スマートフォン」の使い方（主体的なルール作り）について意見交換をしました。

学校保健委員会では、子供たちの健康や安全に関する諸問題について、家庭や学校でのそれぞれの実態を把握しながら、問題となる項目について解決策を探り、保健厚生部からの資料提供をお願いして研修の場としています。6月の委員会では、特に学校で実施した「睡眠のアンケート結果」をもとに意見交換をしました。



進路に関する懇談会

東籬編集委員会では、年2回発行されるPTA機関誌「東籬」の発行について話し合いをしました。

進路指導委員会では、子供たちに適した進路について、研修・研究をしています。平成18年度には、進路指導委員会からの発案で、「PTA大学訪問」を企画し、近隣の大学への訪問を毎年実施しています。また、平成26年度より前年度に卒業した生徒の保護者を招いて受験の準備や子への接し方、受験校の決定等々、座談会形式で文系・理系に分かれて「進路に関する保護者同士の懇談会」を実施しています。

このように、積極的に意見交換の場や各種催し物を開催し、PTA活動をとおして共に歩んでゆきたいと思えます。

富山東高校PTA会長

五十田 利昭

＊高岡高等支援学校PTA＊

「子供を育てるための縦の繋がり、横の繋がりづくりを目指して」

本校のPTAは、会長1名、副会長4名、書記1名、学年委員3名、監事1名、専門委員会委員長3名の13名で「役員会」を構成し、全ての保護者は総務・進路・広報のいずれかの委員会に所属しています。

今年度、本校のPTAでは、保護者の声を拾って三つの目標を立てました。①学校行事における保護者の参加率を上げる ②家庭での子供との会話や一緒に活動する行事を増やす ③卒業後も悩み等を相談する相手を作る です。そこで、PTAの役員会や各専門委員会、学年委員が取組んでいる活動を紹介します。

まず、①では、保護者と学校の繋がりを強くするためには、保護者や先生方がお互いの名前を覚えることが大事だと考え、名札を用意しました。学校行事では、学年毎に色分けした名札を首に掛け、各専門委員会では机上にネームプレートを用意しています。先生方も名札を着用します。広報誌「あゆみ」を作成する



親子ボランティア除草活動

広報委員会が、全保護者の思いが紙面に載るよう企画を進めます。行事

への参加の呼び掛けは、役員中心に行っています。また、PTAと教員との懇親会を年1回実施しています。

②では、総務委員会が毎年2回「親子ボランティア活動」を企画・運営する他、新たに「親子ボウリング大会」を企画しました。進路委員会では子供たちが夏季休業中の全校登校日に学習する「就労支援セミナー」に保護者も一緒に参加し、就職に向けて身に付けておくことについて親子で対話する機会を作り



就労支援セミナー

ました。その後に「進路学習会」企業の人から学ぶ」を開催しました。③では、進路委員会が「座談会」を企画しています。卒業生の保護者に在学中から現在までの話を聞き、学年毎の小グループで悩みや将来の不安等について相談する形式で行っています。皆でお弁当を食べ、お茶を飲みながら気楽に参加できるようにしています。

本校の活動は小規模校ならではのもの。PTAと教職員が和気あいあいとした雰囲気を作り、就職という同じ目標に向かって子供たちを育てていけるところが良いところです。これからも様々な方面の方々と連携し、繋がりを作っていきたいと思

高岡高等支援学校PTA会長

土屋 奈苗

地区指導者研修会報告

新川地区指導者研修会

日時 6月12日(火)

会場 魚津高等学校

分科会と発表校

第1分科会 高校教育とPTA

魚津工業高校 林美樹雄会長

第2分科会 進路指導とPTA

上市高校 水上雅博会長

第4分科会 家庭教育とPTA

入善高校 古川和幸会長

講演

「ぼんどり騒動について」

元県立図書館

副館長 浦田 正吉 氏

高岡地区指導者研修会

日時 6月13日(水)

会場 ウィング・ウィング高岡

発表校

進路指導とPTA

福岡高校 藤森淳也会長

生徒指導とPTA

水見高校 正保哲也会長

高校教育とPTA

大門高校 松物賢一会長

講演

「高校生の食生活を考える」

富山大学人間発達科学部

准教授 藤本 孝子 氏

富山地区指導者研修会

日時 6月29日(金)

会場 富山中部高校

分科会と発表校

第1分科会 高校教育とPTA

中央農業高校 堂田武宗会長

第2分科会 進路指導とPTA

富山東高校 五十田利昭会長

第3分科会 生徒指導とPTA

富山いずみ高校 跡治信明会長

第4分科会 家庭教育とPTA

富山高校 深松 茂会長

講演

「高校生を取り巻く環境」

全国高等学校PTA連合会

会長 牧田 和樹 氏

砺波地区指導者研修会

日時 6月13日(水)

会場 小矢部市農業環境センター

発表校

進路指導とPTA

砺波工業高校 老松直人会長

高校教育とPTA

南砺福光高校 島田 優会長

講演

「人をつなぐ、心をつなぐ」

小さなカフェでの橋わたし」

みやの森カフェ

主宰 加藤愛理子 氏

### 北信越地区高P連 研究大会新潟大会

平成30年度北信越地区高P連研究大会が7月13日・14日に新潟県民会館で開催され、北信越5県から約1200名、本県から139名が参加しました。



初日は開会式に続いて羽茂高校郷土芸能部の歓迎アトラクションがあり、佐渡おけさを始めとして素朴で情緒あふれる民謡が披露されました。引き続き分科会が4会場に分かれて行われ、その後大会参加者が一堂に会して教育懇談会が開催され、1日目の日程が終了しました。

2日目は「PTAに期待すること」家庭教育・地域の教育力を高めるために」と題して、文部科学大臣補佐官の鈴木寛氏による記念講演がありました。鈴木氏は、長らく教育施策に関わってこられた豊富な経験をもとに、AIの発達はどう進み、職種によっては、AIに取って代わられる時代がくること、だからこそこれから求められる人づくり、さらには、現在進められている高大接続改革などについて熱く、お話しされました。また、最後には、「学びを先導するのは北信越」という力強いこともありました。あつという間に時間が過ぎていきました。

平成31年度は、長野市のホクト文化ホール（長野県民文化会館）を主会場に、7月4日（木）・5日（金）に開催されます。

### 分科会発表概要

#### 第1分科会（高校教育とPTA）

「子どもの成長と親の目」

高岡商業高校PTA会長

海老 忠大



本校は、明治30年6月、高岡市立高岡簡易商業学校として開校し、今年、創立121年を迎える。県内外の産業界で活躍している同窓生数は約2万3千名となり歴史と伝統のある商業高校である。

本校のPTA活動には、まず、PTA理事会・総会・学年別保護者懇談会があり、総会前に保護者が参観する「公開授業」も実施している。また、総会において地域から講師を招聘し、保護者への講演会を開催している。二つ目は、部活動激励会である。5月下旬、「委員総会」の日に保護者役員が、県高校総体や各競技会に向けた激励を行っている。三つ目は、PTA研修会である。毎年7月初旬に大学や企業を訪問し進路に関する研修会を実施している。進学の先の大学等を訪問し本校の卒業生との懇談会を行い大学生生活の実態を聞き、地元の企業を見学し求人先の知識を深めるなど、子どもの進路実現に向けた助言に役立てるよう研修している。四つ目は、さわやか運動で

ある。毎年6月に学校と保護者、関係機関と連携を図って規範意識やマナー向上のための運動を生徒の通学路で声かけをしている。五つ目は、会報「龍骨」の発行である。年2回発行し各種委員会の活動報告や、全国・地区研修会の参加報告等を掲載している。PTA活動の様子や子どもに関わる学校行事、また、特集として、親と子、そして教師のそれぞれの立場で考えた意見を「親の目、子の目、教師の目」というコーナーを設けて紹介している。

子どもの高校生活は、勉強や学校行事、放課後は部活動と充実した学校生活を送っているが、心が揺れ動き、大人には何でもないことであっても子どもは疑問を抱いたり、悩んだり、考え込んでしまったりする時期ではないかと思っている。そこで、子どもの生育を振り返りながら現在の状態を見て、成長を注意深く見る「観察力」、子どもの深層心理にある心の本質をみる「洞察力」をもった「親の目」が大切ではないかと考えている。家庭教育では、子どもの成長を「親の目」で見守り、子どもの悩みや相談は、親子が一緒になって考えて共感した「対話」を重ねて、「考える力」をつけてやり、「自立」させることが、大切なことではないかと思う。今後、子どもがどのように社会に関わり、適切な行動がどれだけの勉強や学校行事、部活動などで、「主体的、対話的で深い学び」ができるよう、学校や家庭そして地域が一層、連携した教育と支援が大切であると思う。

#### 第2分科会（進路指導とPTA）

「もつと生徒たちに

大人との対話の機会を」

上市高校PTA会長

水上 雅博



経団連の発表によると、「採用担当者が面接の際に最も重視するものは何ですか」のアンケートに対し、「コミュニケーション能力を最も重視する」回答が一位を占めその割合は87%と高いものでした。また、二位には主体性、さらにはチャレンジ精神、協調性、誠実性、責任感、と続き特別な知能・技能よりも社会人としての基本的な部分が求められていることが読み取れます。一方、昨今の連絡ツールの発展等により対面のコミュニケーションを苦手とする生徒が増加していることも否めません。そこで、どのようにしたらコミュニケーション能力の向上にPTAとして寄与できるかを考え、親や教師などではなく、日常生活の中で接点のない第三者の大人との対話の機会を作る事業を二つ企画しました。

一つ目の事業として、就職希望の生徒に対して模擬面接指導を企画・実施しました。生徒は、就職試験に向けて学習し、教員からも面接指導を受けているものの、相手が初対面の大人であることから大変緊張し、想定外の質問にとまどいながら答え

るものも多くいました。

面接指導を受けたことにより、相手の話をしっかりと理解しようとして聞く心構えが芽生え、緊張する場面の経験ができたことで、本番では落ち着いてしっかりと受け答えができたようです。ちなみに、模擬面接を受けた生徒はすべて第一希望の企業に就職できました。

二つ目の事業として、生徒と保護者による対話会「チャットちゃつと上市」を開催しました。子供が思春期に入り、親子の会話が減ってきていると役員会でもたびたび話題に上り、「今の高校生の考えていることが分からない。同世代の生徒との会話から何か推測できればいい。」との思いと、「生徒に見知らぬ大人との会話の機会を持たせたい。」との二つの思いから開催しました。

今年度は「なぜ働くのか」をテーマとして、参加者を小グループに分け、自由な話し合いを持ちました。話し合いのルールとして「否定しないこと」をかけた、多様な意見を受け入れて協調性を高めるトレーニングにもなったようです。働く意義をそれなりに考え、なぜそう思ったかの理由を含めて発表しあったり、質問しあったりしました。今回は「なぜ働くか」をテーマとしていましたが、人生観や校則の話などに話が広がり、時間切れで話足りないとの意見が多く出ていました。次回以降は時間をもう少し長くとり、テーマを保護者と生徒両方から募りより多くの人に参加してもらえよう工夫したいと考えています。

第3分科会 (生徒指導とPTA)

「学び楽しむPTA」

砺波工業高校PTA会長

老松 直人



本校は、明治41年、本校が位置する砺波市鷹栖に、富山県第四の旧制中学校、現在の砺波高校が設立され、昭和37年、社会に貢献しうる工業人の育成を目標として工業高校として独立し、今年で57年目になる工業科単独校である。機械科2、電気、電子科各1の1学年4クラス編成で、現在475名が在籍している。

卒業生の4人に3人が就職し、そのほとんどが地元企業にお世話になっている。進学者も同様で、ほとんどが地元の大学や専門学校に進学し、卒業後は地元の企業に就職している。

また、部活動には運動部、文化部、工学部に96%の在校生が加入しており、特に学科に付随した3つの工学部では、それぞれ全国大会に出場して結果を残している。

さて、本校PTAは役員50名が総務・広報・文化・生徒生活の4つの委員会に分かれて活動を行っており、広報では年3回のPTA通信を、文化委員会では文化祭のバザーやPTA視察研修会を行っている。生徒生活委員会では、昨年度生徒の自転車事故が多かったこともあり、年5回

の交通安全街頭指導や6月中旬のさわやか運動に協力している。総務委員会は会長と9名の副会長で構成され、年間のPTA活動全般の企画運営を司っている。その委員会が昨年度の会長が「生徒の生の声が聞きたい」と意見を出され、12月に「生徒と保護者の意見交換会」を実施した。その意見交換会の中で、生徒は「学校に来て自分たちの活動を見てほしい」のではないかと強く感じた。そこで、他校の事例を参考にし、今年11月に新たに「PTA実習参観」を計画していただいた。

今後のPTA活動のあり方として、PTA行事に一つでも多く参加し、まず、子供の様子を見てあげてほしい。また、担任だけでなく、科の先生や部活動顧問の先生方と交流し、子供が今悩んでいることや、進路についての情報を共有し、すこしでも相談に乗れるようになってほしい。そして、子供と親の関係がますます深まっていく活動、子供と親の思い出作りになるような活動を行っていききたい、と考えている。



第4分科会 「家庭教育とPTA」

「家庭におけるスマホ教育」

3年間の取り組みを元に

富山高校むつみ会会長

深松 茂



むつみ会では、子供たちのスマホ使用に関する、保護者のより良い関わりについて模索し、3年間の活動を積み重ねてきました。平成27年度はまず、富高生のスマホ事情を把握するため、「全国青少年のインターネット利用環境実態調査」と同項目のアンケートを、1・2年生および保護者に実施しました。全国平均では、高校生のスマートフォン所持率は94・8パーセント、富高生は99パーセントで大差はありませんが、「平日2時間以内の利用に抑えている」割合は、全国が30パーセント台にとどまるのに対して、富高生は90パーセントにも上り、「使っていない」生徒も10パーセントいます。

保護者のアンケートでも、我が子がスマートフォンを利用を2時間以内で抑制していることを、各家庭で把握していることが分かりました。親子のコミュニケーションが良好である様子がうかがえます。しかし、インターネット上のトラブルについては、複数項目で全国平均より若干高く、迷惑メールやメッセージに悩んだ経験が多いようです。

利用時間や場所についてのルールが有効と思われませんが、家庭で決めていると答えた本校保護者が3割であるのに対し、生徒は15パーセントに過ぎず、認識にずれがあります。しかしやはり、親子での話し合いは肝要です。この27年度に始まった富山県高P連提唱による「イレブン・セブン運動」について、本校生および保護者は高い認知度を示しています。

一方、当の子どもたち同士の話し合いも不可欠です。平成28年度は、統一ホームルームでSNSのルール作りを行いました。「グループでのやりとりが煩わしい」と思いつつ、「勉強や睡眠の時間が削られ」てしまふ現状を改善しようと、「夜12時以降は未読無視可」等のクラスルールを掲げました。「自分からは言い出しにくかったが、話し合いの機会があつて良かった」との感想もありました。「勉強中は親に預ける!」という提示もあり、保護者の出番と云えます。

平成29年度には「親の学び講座」の講師として、お子様4人がすべて東京大学理科三類に合格された佐藤亮子さんをお招きしました。事前の質問希望アンケートで「子どもがスマホに過度に依存している」との悩みを訴える声がありました。佐藤さんは、「子どもが帰宅したら、親として毎日預かり、リビングでだけ使わせる」ルールとのことでした。家庭のルールは子どもを守る「門限」にもなり得ます。親は積極的に関わり見守りつつ、子どもの自律性を育みたいものだと考えています。

## 第68回全国高P連大会 佐賀大会

「広めよう 高めよう 慈しむ心」  
君たちがつくる希望の明日を

をテーマに、第68回全国高P連大会佐賀大会が、8月20日・21日に佐賀市の佐賀県総合体育館をメイン会場に唐津市、鳥栖市、嬉野市の4市5会場で分散開催されました。全国から約9200人、富山県からは110名が参加しました。

アトラクションでは、初日は、4市5会場において、佐賀県内各高等学校の吹奏楽部の皆さんが会場と一体となったすばらしい演奏を披露し、二日目も各会場で、太鼓部をはじめとする演奏、演技があり大いに魅了されました。

レモンさん（山本シユウさん）による「レモンさんのピタミントーク!」慈しみの愛言葉! Wear e シンセキ!と題する基調講演、7会場に分かれての分科会、二日目は、今までとは異なり、5会場それぞれで記念講演がありました。

分科会では、本県上市高校、水上雅博PTA会長の発表がありました。20日には本県の教育懇談会を佐賀市、唐津市の二会場に分かれて開催し、会員相互の親睦の和を深めることができました。

今回の大会は、気づきや学びの多い、また絆の深まる研究大会となりました。  
次年度の大会は2019年8月22日・23日に京都市で開催されます。

## 参加者の声



第68回全国高等学校PTA連合大会佐賀大会が、「広めよう 高めよう 慈しむ心」をメインテーマに、8月20日、21日にわたり4地区で開催され、私は唐津会場に参加させていただきました。

講演会や分科会に参加して、混迷の時代を生き抜く子供たちが、学校・家庭・地域・社会において慈しむ心を忘れず、私たちPTAがその支えとなり、希望の明日をつくっていくという使命があることを改めて実感しました。

また、教育懇談会では、時間を忘れて様々な意見交換を行い、絆を深めることができました。

お世話いただいた皆様、本当にありがとうございました。

(魚津高校PTA 会長 岩田秀昭)

全国高等学校PTA連合会研究発表テーマ「AIとともに歩む未来」に参加しました。基調講演では石山洸氏のお話はギャグを交えながらのスピード感ある話で、なかなか理解できるまでには至りませんでした。その後のパネルディスカッションでコーディネーターの全国高P連牧田会長、森崎副会長の絶妙な掛け合いと優しい解説で楽しい分科会となりました。

(富山高校むつみ会 会長 深松 茂)

## 平成30年度表彰

本年度の全国高P連大会、北信越高P連研究大会で、次の皆さまが表彰されました。

▼優良PTA文部科学大臣表彰  
団体 富山西高校PTA

▼PTA活動振興功労者表彰  
牧田和樹(元高P連会長)  
石坂兼人(前高P連会長)

▼全国高P連大会会長表彰  
富山東高校PTA  
富山西高校PTA

▼個人 柳田 毅(前高P連会計監査)  
本田利麻(前高P連会計監査)

▼役員 石坂兼人(前高P連会長)

▼北信越地区高P連表彰  
石坂兼人(前高P連会長)  
金田栄悟(前高P連副会長)  
森 雄一(前高P連副会長)

### 編集後記

ここに、会報第119号を無事発行することができました。寄稿していただきました多くの皆さまに、厚くお礼を申し上げます。  
さて、県高P連では、11ヶ月運動を始めとして高校生がよりよい高校生活を過ごせることを願い活動を推進しております。  
来年度は70周年の節目の年となります。今後皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(事務局長 広井 睦)